環境公共 通信

第４１号　平成３１年２月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島 1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

きれいな水を守る子どもサミットが開催されました

平成 30 年 12 月 8 日（土）、鶴田町の国際交流会館において、平成 30 年度「きれいな水を守る子どもサミット」が開催されました。本サミットは県が進めている「攻めの農林水産業」の柱の１つである「水循環システム」の再生・保全に向けた取組の一環として、「水循環を学ぶ旅」等に参加した児童が一堂に会し、活動内容を発表することにより、水資源を大切にする心を育むことを目的に開催されています。

【知事あいさつ】

【発表する富士見小学校の児童】

【参加児童によるサミット宣言】

冒頭、三村知事から、「このサミットは私たちにとって水がどういうものか考えるいい機会だと思っています。皆さんは活動をとおして水が私たちの生活にどのように役立っているか調べ、大切さを知ることができたのではないかと思います。その成果である今日の発表を楽しみにしています。」とあいさつがありました。

続いて、活動に参加した４つの小学校の児童から寸劇などを交えた活動事例発表が行われました。活動をとおして、「田畑に水を運ぶために先人たちが長い年月をかけ施設の整備をしてきたこと」、「水は海や川、山を循環していること」、「汚れた水をきれいにするには手間がかかること」、「きれいな海を守るには山や川を汚してはいけないこと」など活動で学んだ成果を元気に発表しました。発表後には、各小学校の代表児童が、きれいな水を守っていく思いを力強く宣言（サミット宣言）しました。

最後に、環境公共学会の世永会長が「楽しく学ぼう！『水』の話」と題し講演を行いました。水に関するクイズの他、津軽地方で水虎様としてカッパが祀られている昔話等を交えながら、岩木川流域での「水」に関する話を紹介し、本サミットは盛況のうちに終了しました。次世代を担う子どもたちが将来にわたって「水資源」の保全活動を継承していくことを願っています。

【講演する世永会長】

■「環境公共」事例紹介

酪農家を支えるコントラクター

1　日の本中央地区の概要

日の本中央地区 位置図

東北町は県内有数の酪農地帯で、草地畜産基盤整備事業を実施している「日の本中央地区」では、275 頭規模の乳用牛舎１棟を建設中です。青森県の酪農家一戸当たりの乳用牛飼育頭数は 60 頭（H30.2 月時点）ですので、約４倍の規模となります。必要な飼料は近隣の農事組合法人北栄トラクター利用組合（以下、北栄トラクター利用組合）からＴＭＲ※を購入する計画です。

※　ＴＭＲ、ＴＭＲセンター：ＴＭＲ(Total-Mixed-Ration の略)とは牛の泌乳量に合わせて牧草やトウモロコシサイレージ及び配合飼料等を混合した飼料で、ＴＭＲセンターはこれを製造・供給する牛の給食センターのこと。

2　コントラクターとは？

北栄トラクター利用組合には、農作業を請け負うコントラクター部門と、牛の飼料を製造するＴＭＲセンター※部門があります。今回紹介するコントラクターとは農作業を請け負う専門組織のことで、海外では牧柵の設置や移設から、肥料・農薬の空中散布までカバーすることもありますが、日本では主に、牧草やトウモロコシなどの飼料生産を請け負う組織を指します。

3　コントラクターのメリットと必要性

酪農家がコントラクターを利用するメリットは主に３つあります。

１つ目は、これまで飼料生産に充てていた時間を牛の飼育管理に充てられることです。２つ目は、飼料生産に必要な作業機械一式を個人で準備しなくて済むことです。３つ目は、質の高い飼料を確保できることです。コントラクターは飼料生産の専門集団であるため、農地の肥培管理、牧草やトウモロコシの適期刈り取りなど、個人では難しい作業も計画的にこなすことが可能です。

これらにより、酪農家では質の高い飼料が確保でき、繁殖成績の向上、乳量の増加、病気や事故の減少及び作業機械の維持管理費用の軽減により所得向上が期待できます。

本県では、酪農家一戸当たりの飼育頭数が増える傾向にあるほか、後継者不足などによる酪農家戸数の減少が予測されることから、飼料生産の労働力不足に対応するため、コントラクターの必要性が高まっています。

コントラクターは、酪農という生産基盤を維持していくための新たな地域力のひとつであり、県では公共事業や他の事業を活用し、組織体制づくりや施設整備を支援しています。

「環境公共」HP　http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyoukoukyou.html